

中学校第3学年 英語科 学習指導案

期 日 平成22年 9 月28日（火）第5校時
場 所 宇土市立鶴城中学校 3年5組教室
指導者 教諭 中村繁徳
ALT Talia Harris

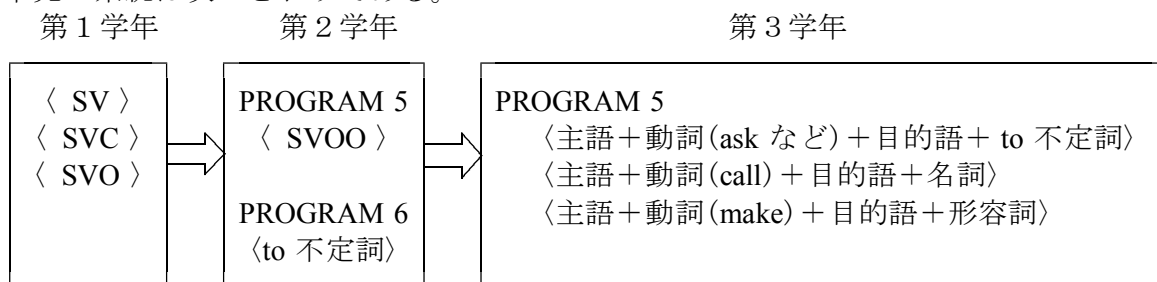
1 単元名 PROGRAM 5 Working as a Volunteer (SUNSHINE ENGLISH CORSE 3)

2 単元について

- (1) 本単元では海外でのボランティア活動について取り扱う。本校の生徒達もボランティア活動に取り組み、生徒会は、ポリオワクチンを得るためにペットボトルのふたを集めている。生徒達が今、現地に赴いてボランティア活動することは難しいが、自分たちの活動に関連があるものとして、海外ボランティア活動で活躍する人々の話を読み、国際協力において何が大切なのかということを考えたり、コミュニケーションの大切さを学ぶ意義は大きい。

言語材料としては、SV00やSV0C等の文型を取り扱う。〈主語＋動詞(make)＋目的語＋形容詞〉を使った無生物主語の表現も登場する。日常会話や自己紹介などの場面で使用する機会も多いこれらの表現を学習することで、自己表現の幅がさらに広がることが考えられる。

- (2) 本単元の系統は次のとおりである。



- (3) 本単元に係る生徒の実態は次のとおりである。

7月に行った意識調査によると、英語が好きだと答えた生徒は（どちらかというとき好きを含めて）70.2%、嫌いだと答えた生徒が（どちらかというとき嫌いも含めて）29.8%であり、英語の学習に対して好意的な生徒が多い。4技能の中では、「書くこと」を苦手と感じている生徒が36.1%と一番多い。県学力調査の結果でも、全学年すべての領域で県平均を上回っているが、「書くこと」に全体的に課題が見られた。特に、自分の考えをまとめたり、場面に合わせた適切な表現を「書くこと」に大きな課題がある。一方で、一番好きな活動に「書くこと」をあげた生徒が39.3%おり、興味・関心が高いことが分かる。一番つけたい力としても、「書くこと」をあげた生徒が58.3%と最も多い。

「話すこと」に関しては、授業中人前で発表することが苦手とする生徒が多く、一人で全体の前で英語を話す場面よりも、ペアやグループでの活動を望む生徒が多いことが分かる。

以下は、本課を学習するにあたってのレディネス及び意識調査である。

調査日 9月14日 調査対象35人（男子16人，女子19人）（ ）内は%	
1 日本文に合わせて、並び替えることができる。	
(ア) I want to study English.	(100)
(イ) I have a lot of things to do.	(57.1)
(ウ) I went to Kyoto to see my friend.	(57.1)
(エ) My father taught me English.	(94.3)
2 形容詞の意味を選択する。	
(ア) surprised (85.7)	(イ) happy (100)
(オ) tired (91.4)	(カ) angry (97.1)
(ウ) excited (91.4)	(エ) sad (91.4)
(キ) sleepy (97.1)	(ク) hungry (97.1)

調査日 7月16日 調査対象37人 ()内は%			
1	英語は好きですか。 ア 好き (35.1) ウ どちらかという嫌い (21.7)	イ どちらかという好き (35.1) エ 嫌い (8.1)	
2	英語の授業で一番好きな活動は何ですか。 ア 聞くこと (11.2) イ 話すこと (30.1)	ウ 読むこと (19.4) エ 書くこと (39.3)	
3	英語の授業で一番苦手な活動は何ですか。 ア 聞くこと (25.5) イ 話すこと (25.5)	ウ 読むこと (9.0) エ 書くこと (40.0)	
4	英語の授業で一番つきたい力は何ですか。 ア 聞くこと (8.3) イ 話すこと (30.6)	ウ 読むこと (2.8) エ 書くこと (58.3)	
5	学習に取り組むときどのような形態が好きですか。 ア 1人で (5.4) イ ペアで (40.5)	ウ グループ (3人以上) で (54.1)	

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 家庭学習の習慣が定着していないため、基本的な語彙や文構造が身につけていない生徒が数人いる。基本的な単語や語順等を学習できる家庭学習用のワークシートを提供する。
- 一斉指導で理解が困難な生徒に対しては、個別の支援をする。単語や教科書の音読においては、一緒に音読をしカタカナをふらせる等の支援をする。
- コミュニケーション活動をより自然な形で行うために、ペアワークやグループワーク等の学習の形態を工夫をする。
- 生徒の意欲を高める課題を提示したい。書く活動においては、それに必要な表現方法を選択できるようなモデル文の提示（「スキットとSKIT」や生徒作文の例示など）を行う。
- 学習の理解を促すために、毎時間ワークシートを配布する。また、ファイルに綴じさせ、学習の振り返りができるようにする。
- 書いた文章等については、「話すこと」とつなげ、人前でスピーチする等、発信力の育成につなげる。

思考力、判断力、表現力等と言語活動	
スピーチ原稿を作成する段階で、新出表現を用いた自己表現を、以前作ったスピーチ原稿に付け加える言語活動を行う。その過程で、英語を自己表現のための言語として意識すること、つまり、自分の気持ちを表すのにどの表現が使えるのかという意識を高めることや、自分の考えをより効果的に表現するために、自分で作った英文の流れを考えることを促す。	
また、出来上がったスピーチをグループ内でお互いに発表し、その内容について、別のグループに紹介する言語活動を行う。内容を確認するために発表者に英語で質問したり、スピーチを紹介するために聞き取った英文を言い換えたりするなど、一つの内容を、一人称、二人称、三人称で表現する必要が生まれる。これは生徒の口から英語の表現が出るまでに、様々な思考・判断の段階が要求される言語活動である。英語の授業では、これらの活動を通して、思考力、判断力、表現力等を育成することができると考える。	

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	(1) 〈主語＋動詞(ask 等)＋目的語＋ to 不定詞〉の形を用いて、だれかに何かを頼むときの言い方ができるようになる。 (2) 〈主語＋動詞(call)＋目的語＋名詞〉の形を用いて、人や物の呼び方等が言えるようになる。 (3) 〈主語＋動詞(make)＋目的語＋形容詞〉の形を用いて、だれかを「幸せにする」などと言えるようになる。
関心・意欲・態度	○間違えることを恐れず自分の考えや気持ち等を話したり、書いたりしている。
表現の能力	○自分の考えや気持ちなどを相手に話したり、書いたりして、正確に伝えることができる。
理解の能力	○聞いたり、読んだりしたことについて、その要点を理解することができる。
知識・理解	○語句や文構造について理解し、知識を身に付けている。

4 指導・評価計画（8時間取扱い）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価項目（方法）
1	1	PROGRAM 5-1 ○〈主語＋動詞(ask など)＋目的語＋to 不定詞〉の表現を理解し、適切に運用する。	○だれかに何かを頼むときの言い方ができるように、音声による反復練習を徹底する。	【表現の能力】 対話の流れに合うように、基本文を使って適切に表現することができる。 (ワークシート)
	2	PROGRAM 5-1 ○本文の内容理解	○大介が何を、どんな理由で集めているのかを読み取らせる。	【理解の能力】 書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。 (ワークシート)
2	3	PROGRAM 5-2 ○〈主語＋動詞(call)＋目的語＋名詞〉の表現を理解し、適切に運用する。	○人やものの呼び方などが言えるように、音声による反復練習を徹底する。	【表現の能力】 対話の流れに合うように、基本文を使って適切に表現することができる。 (ワークシート)
	4	PROGRAM 5-2 ○本文の内容理解	○パプアニューギニアでボランティア活動をしている斉藤先生が感じる日本の生活との違いやそこで使われる言語がどのようなものか読み取らせる。	【理解の能力】 書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。 (ワークシート)
3	5	PROGRAM 5-3 ○〈主語＋動詞(make)＋目的語＋形容詞〉の表現を理解し、適切に運用する。	○誰かを「幸せにする」などが言えるように、音声による反復練習を徹底する。	【表現の能力】 対話の流れに合うように、基本文を使って適切に表現することができる。 (ワークシート)
	6	PROGRAM 5-3 ○本文の内容理解	○斉藤先生が感じる現地の言葉の大切さや国際語としての英語を学習する意義について読み取らせる。	【理解の能力】 本文の内容について大切な部分を読み取ることができる。 (ワークシート)
4	7	PROGRAM 5 のまとめ ○文法のまとめ ○Let's Practice など	○〈主語＋動詞(call)＋目的語＋名詞〉の文をつかって自分のニックネームを紹介したり、友だちのニックネームを聞かせる。事前に音声による復習を徹底させる。	【関心・意欲・態度】 進んで友だちと対話活動をしようとしている。(観察) 【知識・理解】 場面や状況に合わせた語句や文の使い方を理解している。 (ワークシート)
	8 本時	○スピーチ	○自分のスピーチ原稿の適切な場所に〈主語＋動詞(make)＋目的語＋形容詞〉の文を入れさせる。 ○友だちのスピーチの内容を理解しその情報のいくつかを別の友だちに伝える。	【表現の能力】 友だちの発表を聞き、その内容を別の友だちに伝えることができる。 (ワークシート)

(1) 目標

(2) 展開

- 4 -

12分	① スピーチを発表する。 友だちの発表を聞く。 ② 友だちの発表後に、内容の確認のために質問（YES クエスチョン）をする。 ③ 友だちの発表内容を英文でまとめる。	○友だちのスピーチを聞き取り，内容の確認のための質問をしましょう。その後，内容を英文でまとめましょう。	【言語活動】 ・ 自分の得意なことについてスピーチする。（一人称） ・ スピーチの内容について英語で質問する。（二人称） 友だちのスピーチの内容を英文でまとめる。（三人称）	ワークシート
終末 1分	6 Activity 2 スピーチを聞いてまとめた英文を使って，同じグループの友だちを，別のグループの友だちに紹介しよう！ ・ 聞き取った内容を別のグループの友だちに紹介する。 【6人グループ】 ① 友だちのスピーチを紹介する。 別のグループの発表を聞く。 ② 別のグループの発表後に，内容確認のために質問（YES クエスチョン）をする。	○ 聞き取った内容を他のグループの人に伝えましょう。 ○ 質問は，発表者と紹介された人のどちらにしても構いません。	○ まとめの文章が十分でなかった生徒を励まし，やる気を持たせる。 【言語活動】 友だちのスピーチで分かったことを，別のグループの友だちに紹介する。 【表現の能力】 B: 聞いた内容の 1 つを英文で伝えることができる。 【ワークシート】 A: 聞いた内容の 2 つ以上を正確な英文で伝えることができる。 【ワークシート】 ○ 本時の発表についてコメントする。	